

2023年9月16日

早稲田大学校友会代表幹事 萬代 晃

2023年9月卒業式

皆さん、こんにちは。早稲田大学校友会代表幹事の萬代でございます。校友会を代表いたしまして、一言お祝いのご挨拶を申し上げます。

まずは、本日ご卒業の皆さん、そしてこれまで皆さんを支えて来られたご家族の皆様、ご卒業、誠におめでとうございます。

2020年の初頭から猛威をふるっております新型コロナウイルス感染症は、日本国内のみならず、世界的な流行となり、人々の生活にも深刻な影響を与えました。今年に入ってから、行動制限等の緩和が進み、通常の社会活動が活気を取り戻しつつあることを大変嬉しく思っております。

本日ご卒業の皆さんにとっても、この約3年半は勉学をはじめとする学生生活を継続する上で、沢山の苦労があったと思います。だからこそ尚更、卒業生の皆さんを心からお祝いするとともに、校友会の代表として是非メッセージをお届けしたいという熱い気持ちで、今は胸が一杯でございます。

さて、皆さんは、卒業と同時に全員の方がもれなく早稲田大学の校友となり、校友会の会員となります。この機会に、早稲田大学校友会について少しご説明をさせていただきます。早稲田大学では卒業生を「校友」と呼びます。そして「校友会」とは早稲田大学卒業生による同窓会組織になります。早稲田大学校友会は、1885年（明治18年）に、早稲田大学の前身である「東京専門学校」の第1回卒業生を送り出してすぐに発足しました。母校の歩みと想いを共にして、今年2023年には設立138周年を迎えます。校友会の活動方針は、母校そして後輩である現役学生に対する支援と、校友相互の人脈づくりや親睦を図ることにあります。現在の組織は大学内に本部を置き、田中総長を校友会会長に頂き、約60名の幹事団が中心となって運営しており、毎年2億円から3億円程度を、奨学金を中心とする現役学生への支援のほか各種母校支援に充当しております。

現在の校友数は約67万人。日本全国の地域、年次、職域、海外など約1,400の稲門会が組織され、活発に活動しております。早稲田の誇りはこの67万人の校友のパワーです。企業人・経営者はもちろんのこと、総理大臣から地域の世話役、政治家、官僚、法曹、芸術家、医者、ジャーナリスト等々、日本はもとより世界中のありとあらゆる分野で校友が活躍しており、まさに多様性に満ちています。

こうした偉大な伝統を受け継ぎ、私たち校友会は、今後も多くの皆様にご参加いただきながら、「ともに世界へ ともに未来へ」の合言葉を掲げて、「心の故郷(ふるさと)、早稲田」とともにあり続けたいと願っています。

早稲田大学を本日無事に卒業される皆さんは、誰もが経験したことの無い、言わば“答えのない未来”を担っております。現在、世界は、新型コロナウイルスとの闘いがいまだ続いているだけでなく、政治・経済・社会制度・安全保障などの大きな変革の真只中にあり、先行きの不確実性は益々高まっております。しかし、このような時代だからこそ、既成概念にとらわれず新しいものに挑戦する早稲田的な人材が求められています。まさに、地域で活躍し、世界に羽ばたくグローバル・リーダーであります。

これから皆さんが歩いていかれる途中には、楽しいことや嬉しいことばかりではなく、辛いこと、悲しいことなど大きな困難が待ち受けていることもあるでしょう。しかし、皆さんの前途は洋々であると信じています。コロナ禍での学生生活は大変だったと思いますが、それを乗り越えた経験は皆さんの人生にとって大きな糧となるはずです。早稲田で身に付けた「たくましい知性」と「しなやかな感性」に更に磨きをかけ、この早稲田で学んだという誇りと進取の精神を持って、日本中、いや世界中の人々の心を動かし、感動を与え、世界に大きく貢献できるような人になってください。

そして、卒業して早稲田の杜を離れても、「早稲田」という絆は皆同じDNAで繋がっています。早稲田の杜を巣立ち、世界中で活躍する67万人の校友の思いはひとつであります。日本全国津々浦々は勿論のこと、世界中あらゆる国や地域において、校友会は皆さんを温かくお迎えします。また、同時に皆さんが実社会で活躍される中で、人材の宝庫・早稲田大学校友会という組織を存分に活用されることも大歓迎であります。

最後になりますが、皆さんの傍らにはいつも母校である早稲田と校友の仲間がいて、勇気づけてくれることを忘れないで下さい。そして、ゆくゆくは母校の後輩である現役学生たちの力強い応援団としても温かいご支援をいただければと願っております。

校友会のキャッチフレーズは「ともに世界へ ともに未来へ」です。卒業生の皆さん、世界へ！未来へ！是非力強く羽ばたいてください！！

あらためて、ご卒業おめでとうございます！！

以上